

# 令和5年度

## 自己評価結果公表シート

朋来幼稚園

### 1、園の教育目標

真宗保育の「共に生き、共に育ち合う」保育を理念とする。他の子どもと比べるのではなく、その子のありのままの姿を認め、一人ひとりの個性を尊重し、子どもが生きる力や自ら考え行動する「自発心」を保育や遊びの中から育てる。スローガンは「楽しさ、追っかけっ子」。

### 2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って行った自己点検、自己評価を実施することによって、教職員自らが自分自身を振り返り、課題を明確化し取り組むことで、個々の資質向上を図っていく。  
ICT等を活用した情報発信（保育の可視化）に積極的に取り組む。

### 3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
1. 子ども・保護者との関わり方を見つめ直し、より深い信頼関係を築いていく	<ul style="list-style-type: none"><li>・保護者個人懇談（年3回）の実施した</li><li>・「子どものあゆみ」や「関わりの記録」を作成し、一人ひとりの子どもとの関わりを定期的に見つめ直した</li><li>・電話やお便り、メモ等を活用し、保護者との連携を密にした</li><li>・学期毎にクラスの情報交換会（全職員参加）を実施した</li><li>・園内での子どもの育ちを「見える化」していくツールとして、月1回「ポートフォリオ」を実施した</li></ul>
2. 保育者の資質向上 保育者の働き方見直し	<ul style="list-style-type: none"><li>・外部機関（大私幼など）の研修会に参加した。</li><li>・カウンセラー（臨床心理士）とのコンサルテーションを通じて専門知識や園児への関わり方の幅を広げた。</li><li>・園内研修の充実</li><li>・午後半休制度の充実（年2回実施）</li></ul>
3. 園内環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"><li>・保育室内での子どもの遊びに関する環境整備に力を入れる</li><li>・ホール棟 人工芝の貼り替え</li><li>・園庭南側の畑での農作物の栽培・収穫</li><li>・園庭の自然環境の充実（きんかん）</li></ul>
4. 保育の可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>・インスタグラムの充実（毎日更新）</li><li>・YouTube 動画配信の継続</li><li>・アプリ「ルクミー（登降園管理、検温など）」を活用した保護者への情報発信</li></ul>

#### 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

LINE グループ（教職員全体、学年ごと）や BAND アプリを活用し、全教職員が情報の共有化を図り、「全ての先生」が「全ての子どもをみる」ことを目標に日々取り組んだ。

子どもの園内の様子や育ちの過程を丁寧に保護者へ伝えていくことを意識して、ICT を活用した新たな情報発信に取り組んだ。

コロナが5類に移行した後は、例年取りの園行事を実施していくことや保護者に来園して頂く機会を増やしていった

職員ひとり一人が自己実現を図り充実した日々が送れるよう働き方の改革を少しずつ進めていった

#### 5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教育課程・保育課程の見直し	幼稚園型認定こども園として丸5年が経過し、3～5歳児と1・2歳児の教育課程や保育課程をいかに円滑に繋ぐのか、改善を図っていく必要がある 令和6年度より満3歳児クラスを新設するにあたり、同じ学年である未就園児クラス（にこにこクラブ）、満3歳児クラス（ふたば組）、2歳児クラス（つぼみ組）のカリキュラムや教材の整合性を整える必要がある
園に対する保護者の理解度を高める	建学の精神に即した、私学の独自性に充分配慮しつつ、保護者が園に期待する幼稚園像を把握しつつ、園や子どもを取り巻く社会状況にも目を向けながら、子どもや保護者が利用しやすい施設、地域に必要とされる施設を目指して、検討していきたい。
安全管理	必要最低限の感染症対策を継続して実施 コロナ渦を経て、子どもの体力や運動能力が低下しケガが増えていることを踏まえ、遊具の安全な使い方を子どもたちに伝える
職員の働き方	働きやすい職場環境を目指して、希望日の全休制度の導入を検討する
特別支援教育について	外部機関との連携を強化する。 主任等が個別指導計画案の作成等の研修に積極的に参加していく 該当する園児が年々増加しており、丁寧な関わりを進めるための職員配置を見直していく
2歳未満児家庭への支援	未就園の家庭に対して、幼稚園へ気軽に来園頂けるような取り組みを実施する （ないす とぅ みーちゅー、ベビーマッサージなど）
認定こども園としての環境整備（自然・ICT）	幼児教育は「環境を通して行う」の原点に立ち返り、園内の自然環境、人的環境、園庭環境、室内環境をさらに充実させ、「子どもの主体性」を第一に置いた、充実・改善を図っていく

#### 6、学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

#### 7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。